

一人一人が責任を持ち、やりきること！ 協力！

三次市立八幡小学校 対象学年（５・６年）

体験活動の種類 自然 文化芸術

体験活動場所・宿泊場所 尾道市・棕の里ゆうあいランド交流館

【学校紹介】

○ 本校は、三次市の南側、自然豊かな山村に位置している。学校のそばを流れる馬洗川・戸張川には珍しい川の生き物が多数生息し、近くの山にはブッポウソウも飛来する。児童は地域学習をしたり、地域の行事に積極的に参加したりして地域の人たちと交流する中で、自分たちの住む八幡地域を大切に作る心や一人一人を大切にしていくなで、豊かな情操が育ってきている。



本年度は、学校教育目標を「心豊かで、たくましく、自ら学ぶ意欲を持った児童の育成」とし、宿泊体験活動を含め様々な体験を通して、自立心やねばり強さを育てる取組を進めているところである。

昨年度は、２泊３日で、５・６年を対象に「棕の里ゆうあいランド交流館」で宿泊体験活動を行っている。

- 校長名：大澤 博
- 児童数（学級数）：33名（５学級）
- 所在地：三次市吉舎町丸田 224 番地
- 電話番号：0824-43-2026
- URL：<http://www.kisayawata-e.hiroshima-c.ed.jp>



【体験活動のねらい】

- 校外における宿泊体験活動を通して、児童一人一人の主体的に活動しようとする意欲や実践力、自立心や責任感を育てる。
- 児童自ら食事や集団活動等を計画し活動させることにより、責任を持って役割を果たしたり協力したりすることの大切さを感じさせるとともに、達成感や充実感を味わわせる。
- 自己の目標を設定させ、活動中・活動終了後の振り返りをさせることにより、活動の充実と今後の生活等への発展・深化、定着の一助とする。

【指導計画】

実施時期	活動内容	実施時間数	教育課程上の位置づけ	実施場所	指導者
6月	調理実習	5	家庭科	学校	担任
7月	「かれてしまったヒマワリ」4-(1)	1	道徳の時間	学校	担任
	宿泊体験活動についてのオリエンテーション ・目標設定(全体・個人) ・活動計画作成 ・活動時間表作成 ・役割分担・内容の具体(細案作成) ・約束事等の作成・確認 ・持参物の確認 ・安全に係る事前指導	2	学級活動	学校	担任
	予算に基づいた献立・買い物の計画	1	家庭科	学校	担任
8月 19日	・持参物の再確認 ・安全に係る事前指導	課外	課外(夏季休業中登校日)	学校	担任
8月 20日 ～ 23日	宿泊体験活動 ・海辺の学習 ・水生生物の観察 ・水軍城の見学 ・棕浦町の歴史 ・民俗資料館の見学 ・海水浴 ・食事の準備・買い物・食事・片付け ・掃除 身辺整理	23	学校行事	棕の里ゆう あいランド 交流館 海辺 水軍城 民俗資料館 海水浴場	海辺の生き物の専門家 棕浦町の方 引率教員
9月	宿泊体験活動の振り返り ・班ごとに目標に対する反省を行い、感想文を書く。	2	学級活動	学校	担任
	お世話になった人へのお礼の手紙を書く。	2	国語科	学校	担任
10月	宿泊体験活動の報告 ・発表朝会に向けての準備 ・発表朝会での報告	2	学級活動 朝会	学校	担任

【体験活動の概要】

- 生活全体を作り上げる体験

宿泊体験活動を通して、児童一人一人の主体的に活動しようとする意欲や実践力、自立心や責任感を育てる。

- ① 自ら生活をデザインし、主体的に活動する。

児童が計画したスケジュールに沿って、炊事・掃除等の役割分担を行い、言われなくても自分たちで実行した。児童は、毎日、計画通り海水浴と魚釣り(朝・夜)が行えるよう互いに声を掛け合いながら生活していた。



② 自ら食事を計画し、協力してやり遂げる。

初日と最終日の昼食を除き、3泊4日の計8食を全て自分たちで作った。準備、買い物、調理、片付けなどを役割分担し、グループごとに責任をもってやり遂げることができた。



〔みんなで作った毎日の食事〕

○ 水生生物の観察・採集・料理

吉舎町の講師 鎧坂さんから水生生物や地層について学ぶことを通して、八幡と棕浦町の自然を比べ、環境について考える。

八幡の川や山の生物・植物について学校でも指導を受けている鎧坂さんに、海の生き物についても教えていただいた。テングサやミル等を採取し、ところてんやてんぷらにしておいしく食べた。海と川の比較をしたり、貝の標本を作ったりする活動を通して、海には多種多様な生物がいることや潮が満ち引きすること等、多くのことを知ることができた。



〔海の生き物や貝殻の採集〕

○ 棕浦町の歴史学習

海辺の暮らしや文化を知り、視野を広げるとともに、体験先の方とコミュニケーションを図る。



〔ところてん作り〕

① 体験先の方を講師に招き、歴史や伝承されている文化を学ぶ。

因島棕浦町で伝承されてきた村上水軍出陣の際に舞ったという「法楽踊り」や村上水軍が千石船を多数擁し海運業で活躍したこと等の話を興味深く聞いた。その後、近くの民俗資料館で千石船の大きな模型を見た。棕浦町の人達が、自分たちの郷土に誇りを持っていることを強く感じ取っていた。また、体験先の区長さんに蛸の差し入れをいただき、棕浦町の方々の温かさに触れることができた。



〔棕浦町の歴史を学習中〕

② 水軍城を見学し、海の暮らしや歴史を理解する。

村上水軍が残した武具や遺品等の展示を見学した。前日の体験先の方の話と重ねて、因島では、海を中心にした文化が発展し、人々はその伝統を大切に守りながら生活してきたことを知ることができた。



〔民俗資料館の見学〕

【体験活動の効果を高める事後学習】

○ 宿泊体験活動の振り返り（学級活動）

活動日誌を見ながら、生活の様子を振り返り、宿泊体験活動で学んだことを感想文に書いた。責任をもって行動することや協力することの大切さ、講師や体験先の方、家族への感謝の気持ちを表すことができた。

- お世話になった人へのお礼の手紙の作成（国語科）

宿泊体験活動を振り返る感想文を書いた後、お世話になった人にお礼の手紙を書いた。手紙の書き方について再確認するとともに、心に残ったことや学んだこと、感謝の気持ちをお世話になった人のことを思いながら心を込めて書くことができた。

- 宿泊体験活動の発表（発表朝会）

宿泊体験活動の様子を他学年に写真を見せながら発表した。宿泊体験活動を通して学んだこととして、周りの人に感謝する気持ちや、これからの学校生活に生かしていきたいことを発表することができた。

【交流先や施設等との連携】

- 交流先や施設等との事前の連携

施設使用に当たっての手続き・救急時の医療機関等について施設を管理している尾道市教育委員会因島瀬戸田地域教育係の担当者と連携をした。また、体験先の歴史等についてのお話を聞くために講師を紹介していただいた。

- 交流先や施設等との活動中の連携

尾道市教育委員会因島瀬戸田地域教育係の担当者の方が出迎えてくださった。紹介していただいた講師の方に指導をいただいた。

- 交流先や施設等との事後の連携

体験先の歴史等について教えてくださった方にお礼の手紙を送った。

【評価の工夫】

- 活動日誌を使い毎日振り返りを行い、感じたことや見つけたことを記録したり、友達のよさに気付かせたりして、達成感や成就感を味わわせた。
- 事後学習では、目標に対する反省を行い、感想文を書いたり、お世話になった人への感謝の手紙を書いたりすることで、自分たちが宿泊体験活動で学んだことを価値付けた。

<児童感想文（抜粋）>

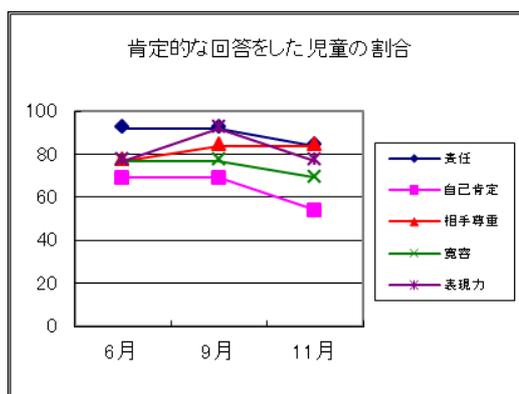
- ・ ぼくの一番の思い出は、料理を作って食べたことです。ぼくは、家でふつう料理をしていないから、この宿泊体験活動で色々な料理の作り方を学びました。自分たちの作った料理がこんなにおいしいことを初めて知りました。
- ・ この宿泊体験活動で、調理から片付けまで全部自分たちでしないといけなかったのが、大変でした。だから、毎日ご飯を作ってくれる親のすごさを改めて知ることができました。
- ・ 心に残った三つ目は、椋浦の歴史や法楽踊りについて学んだことです。・・・踊りはすごく変わっていました。ぼくは「ふしぎな踊りだなあ。」と心で思いながら話を聞いていました。話している人がすごい人で、資料が何枚もあったので、頭の中では、パンクしそうでした。けれど、それだけ地元を愛しているのが分かりました。ここが千石船を作れるようなすごい所なのだと、とてもよく伝わりました。・・・たくさんのいい思い出を作ったし、生活で使えることも学びました。八幡小学校5・6年生の一生の思い出になると思います。
- ・ 宿泊体験活動はとてもいい経験になったし、いつもはできない体験ができました。みんなで協力し、料理の準備・片付けをし、お風呂そうじなど役割を分担し自分自身で責任をもちやりとげました。これらは将来へ役立ちます。これらのことを生かしてチャレンジもできます。

【安全面の配慮事項】

- 事前指導を徹底する。
移動時の交通安全指導（車内・休憩時等）、調理時の火気の取り扱い方、海辺での過ごし方（バディによる確認等）、宿舎での過ごし方等
- 尾道市教育委員会因島瀬戸田地域教育係の担当者と連携をとり医療機関の確認を行う。
- 緊急車両を準備したり、救急用品を持参したりする。（特に虫刺され・熱中症対策）
- 衛生管理の徹底を行う。
弁当はクーラーに入れて運搬、手洗いの励行（消毒液）、加熱処理の徹底等
- 海辺における安全確認を徹底する。
- 緊急時の連絡体制を確立し確認しておく。

【体験活動の成果と課題】

- 体験活動を通して得られた成果
児童アンケートの結果、肯定的な回答をした児童の割合は右のグラフのように変化した。



宿泊体験活動直後（9月）は、表現力・相手尊重

の項目において、肯定的な評価が増えた。これは、宿泊体験活動において他者との共同生活を体験し、自分の気持ちを言葉で伝えることや相手の立場になって考えることの大切さを学んだからだと考えられる。ふだんの生活でも、役割分担を考え友達への配慮をしながらみんなが楽しめるように工夫する児童が増えた。また、見通しをもって活動できるようになった。

保護者アンケート「体験活動を通して子どもが成長したと思う」という項目についての肯定的な評価は、9月が69%、11月が77%だった。

<保護者の感想（抜粋）>

- ・ みんなで協力できるようになった。親に頼らず何でもきちんとできるようになり、一回りも二回りも成長したと思う。言われなくても自分で考えて行動するようになった。
- ・ 自分から何かしようという気持ちが以前より出てきた。手伝いはよくしてくれる。
- ・ 自分のことは、自分の力で解決することができるようになったように思う。こちらが言わなくても進んでやるようになった。今までしたことのない体験をし、スキルが増えたと思う。

- 課題

11月に調査した児童アンケートの結果では、ほとんどの項目で肯定的な評価が宿泊体験活動直後に比べて下回った。これは、宿泊体験活動で身に付けた力を継続していく取組が不十分であったためと考える。宿泊体験活動と道徳教育をさらに関連付けたり、保護者への体験発表会等を通して多くの人に学んだことを表現したりする学習を計画的に位置付けていく必要がある。

来年度は、同じ中学校区の安田小学校と合同で宿泊体験活動を実施する予定である。